



校長室から No.1 下関市立文洋中学校 校長 横内 淳

2019.04.23

《学校教育目標》 『感動のある文洋中学校』

本年度着任した校長の 横内です。保護者の皆様のお力を得て、教職員・生徒と共に活気ある学校づくりに励みたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

さて、学校だよりとは別に、私が生徒たちに話したことや学校生活を通して考えている思いなどを、『校長室から』と称して保護者の皆様にお届けしたいと考えています。

第一号の今回は、本年度、始業式での私の話をお届けします。学校教育、とりわけ女子教育の重要性をうったえ、5年前にノーベル平和賞を受賞したマララ ユスフザイさんが、先の3月23日に来日したことを受けて生徒たちに話したものです。



平成31年度、そして5月1日からは新しく元号が令和となる新年度がスタートしました。ひとつ学年を進級させた2、3年生の元気な顔をこの場で見ることができ、たいへんうれしく思います。皆さん、昨年度の反省をもとに、この一年間の目標を決めましたか。そして、自分の夢に向かって志を抱いて、この始業式に臨んでいますか。

さて、日程の違いは多少ありますが、日本全国で新年度が始まろうとしています。いや、日本だけではないかもしれません。世界中に子供たちがいて、それぞれの国に始業式があるのでしょうか。世界の国々にそれぞれの学校、.....。

ここで、皆さんに聞いてほしい、ある国の少女の言葉があります。

『教育は人生の恵の一つであり、生きるうえで欠かせないものです。このことを私は17年間の人生で経験しました。故郷では、私はいつも学校に通って、新たなことを学ぶのが大好きでした。

私たちは、教育を渴望していました。なぜならば、私たちの未来は教室の中にあつたのですから。共に座り、学び、読みました。格好良くて清楚な制服が好きでしたし、大きな夢を抱きながら教室に通っていました。』

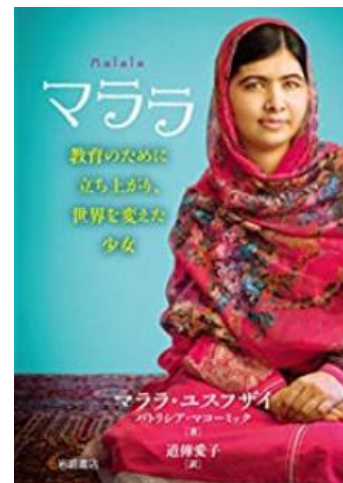
ところが、驚くことに、この少女の学校は破壊され、学校で勉強することができなくなってしまったのです。そんなことがあるのかと皆さんは思うかもしれませんがね。この少女は勉強をあきらめてしまったのでしょうか。少女は、こう続けます。

『私の村には、今も女子のための学校がありません。私の願いであり、義務であり、挑戦、それは、私の友達や姉妹たちが教育を受けることができ、そして夢を実現する機会を手に入れるようにすることです。』

皆さんは、この少女が誰かわかりますか。この写真の人です。(ここで、スクリーンにマララさんの写真を投影し、図書室にあるマララさんの本を紹介しました。)彼女は、つい先日、約2週間前の3月23日に日本に来られ、日本の総理大臣とも会談された人です。今は、22歳に成長されています。

そうです。パキスタンの少女、マララ ユスフザイさんです。

彼女は、すべての子ども達への教育の重要性をうったえ、2014年、日本でいうと平成26年12月10日、ノーベル平和賞を受賞しました。紹介した文は、そのノーベル賞授賞式の言葉です。さらに、マララさんは語ります。



『これは私にとって出発点であり、立ち止まる場所ではありません。すべての子供たちが学校にいるのを見届けるまで、私は闘い続けます。』

(マララさんの言葉の朗読は、マララさんと同年代の佐藤先生にお願いしました。)

当時わずか17歳の少女が見せたその志が、世界中に感動を与えました。彼女の眼には、どのような苦勞も仲間とともに乗り越えていく「優しく、力強い決意」がみなぎっていました。現在も、逆境を乗り越えて学校を再開しようと呼びかける彼女の姿に世界の人々が共感し、支えようとしています。

そうです。人は仲間と支えあうことで、困難を乗り越えて互いに成長し、夢の実現へ向けて進んでいくのです。

マララさんの言葉にある通り、学校は素敵な場所です。仲間とみんなで支えあい、苦しいことも励ましあい、一緒に楽しく過ごす場所です。泣いたり笑ったり、頑張ったり少しへこんだり、でもまた立ち上がって前へ向いて進んだりしながら、共に学校生活を作り上げる中で、皆さんが成長していく場所が学校です。彼女の言葉通り、「未来は教室の中にある」のです。

皆さんの仲間は、今ここにいます。1年生も、午後には入学してきます。生徒会や学級活動・部活動など多くの学校生活の場で、皆が支えあって素晴らしい学校づくりをしていきましょう。

そして、皆で作上げる学校生活が、皆さん自身の夢や目標を実現に導くでしょう。先生達は今年度も、皆さんの夢の実現を応援していきます。一緒にがんばりましょう。

平成から令和に繋がる節目の年、皆さんが手を取り合って、教室の中から未来へつながる学校づくりへ、一歩一歩力強く歩んでいくことを祈っています。

さあ、皆さんが文洋中学校をつくる新年度のスタートです。がんばりましょう。

また、4月12日(金)に行った「下関市いのちの日」で、君嶋愛梨沙さん(ボブスレー・陸上競技のオリンピック候補選手)による講演後に生徒に読み聞かせた詩も、ここにご紹介します。タイトルは、『ペンギンの子が生まれた』です。

ペンギンの子が生まれた

父さんと母さん

それぞれのおじいさんとおばあさん

さらにはひいじいさんとひいばあさん

ほんの25代さかのぼっただけで

この子の両親を始めとする先祖の総計は

6710万8862羽になる

そのうちのどの1羽がかけても

この子はこの世に

現れなかった

ペンギンの子が生まれた

(川崎 洋「ワンダフルライフ 地球の詩」より)



※生まれてくることは奇蹟の連続のお陰です。子どもたち一人ひとりが、かけがえのない命をもっています。子どもたち全員が、素晴らしい大切な存在なのです。